

新

聞

第3種郵便物認可

賛同者に保管してもらう災害用非常食品を手にする古谷理事長(四日市市で)



【四日市】高齢者給食事業を手掛ける「特定非営利活動法人シルバーフードサービス」(四日市市昌栄町)が、災害用非常食を各家庭などで保管してもらい、いざという時に回収し

て被災地へ届けようという「全国非常食設置推進運動」を開始した。十月一日午前十時から、市中央緑地公園で非常食一千箱を無料配布して賛同者を募る。

備蓄品は二㍑の水一本、アルファ米のおかゆ、おこわ、ピラフ各一袋とアドウ糖あめ一袋。縦十七センチ、横三十五センチ、奥行き十センチの白い段ボール箱に収納されている。賛同者はこの箱一式を災害に備えて預かり、身

近で災害が発生した際には自ら使用し、近隣地域で起きた場合は一堂に集めて被災地へ支援物資として送る仕組み。食品の賞味期限は五年間で、三年間の保存後、使用されなかつた備蓄品をいったん回収し、NGOを通じて発展途上国へ寄付するという。

919||へ。  
(安藤富代)  
1

# 非常食、家庭で保管を

四日市  
NPOが配布

災害時に回収、被災地へ

同法人の古谷賢治理事長(四)は阪神淡路大震災の体験者。当時、勤務していた給食会社から支援物資を届けたが、腐らせたり、被災者へ配り切れなかったりした苦い経験がある。東日本大震災をきっかけに温めてきた構想を実現させた。「自助、公助、共助の気持ちを大切に賛同者を増やして運動を全国に広げていきたい」と話している。十月一日は午前九時半から整理券を配る。備蓄品の無料配布は二回目以降も予定している。問い合わせは同法人